



ポーランドの美しき地域：
ルベルスキェ県 —ここから欧州連合が始まる



2010年
駐日ポーランド共和国大使館



情報:	地域：ポーランド東部
• 面積:	25,122 km ² (ポーランドの面積の8%を示す)
• 人口:	約 2,244,000 人
• 人口密度:	89 人/ km ²
• 県都:	ルブリン (Lublin) — 人口: 約 354,000 人
• 主な都市:	ビャワ・ポドラスカ (Biala Podlaska); ヘウム (Chelm); ザモシチ (Zamosc);
• パトナー地域	シュタイアーマルク州 (オーストリア); プジェスキ州 (ベラルーシ); ノヴゴロド州 (ロシア); ロレーヌ地域圏 (フランス); ヘルダーラント州 (オランダ); オデッサ州 (ウクライナ); ハイドゥー・ビハール県 (ハンガリー); ヴェネト州 (イタリア) など
• 姉妹都市	アルカラ・デ・エナレス (スペイン); プレスト (ベラルーシ); ランカスター (イギリス); ミュンスター (ドイツ); ナンシー (フランス); オムスク (ロシア); リシオン・レジオン (イスラエル); ティルブルフ (オランダ);

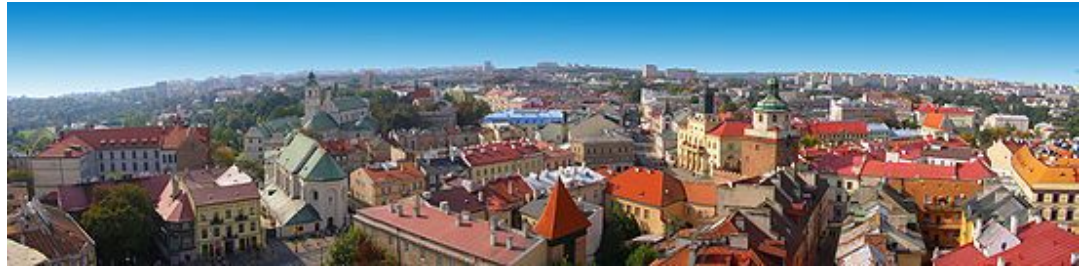
概要:
ルベルスキェ県はポーランドの東部に位置し、EU加盟後はEUの東の境界線になる。ルベルスキェ地方は、昔から客人を厚くもてなす友好的な地域であり、東部辺境地域に特徴的な、多様な文化遺産の宝庫である。ヨーロッパの西と東の境界に位置するこの地域は、大きな発展の可能性を秘めている。県のほとんどの地域、ヴーグ欧州地域圏の範囲にあり、ベラルーシ、ウクライナ、ポーランド間での協力対象に組み込まれている。ルベルスキェ県はポーランドで3番目に大きい。人口密度は低く、都市化もあまり進んでいないので県全体がとても美しい自然に包まれている。県庁所在地はルブリンで、学術、科学の精力的な中心であると同時に、工業開発、サービス開発においても、地域の

先頭に立っている。本地域のその他の部分は主に農業地区である(全面積の 68.2%が農耕地)。ルベルスキェ県は農業が付加価値構造に占める比率では、ポーランドでもトップの一つである (6%)。土地は非常に肥沃で、農業生産は多様化している。ポーランドのホップ生産量の 70%はルベルスキェ県によるものである。

ルベルスキェ県の長所:

- 国境近くに位置している。西ヨーロッパと東ヨーロッパを繋ぐ経済ルートの交差点に、地域の主要道が配置されている。
- 均等な市町網。
- ルブリンの主要都市としての地位が向上中。
- 質の高い自然環境、良好な土地や気候。
- 潜在的な観光発展性。
- 高等教育を受けた人材；ルブリン及び郡庁の所在長で高等教育がダイナミックに発展

ルブリン市



面積：
147.5 km²
人口：
2400
人/km²
ワルシャワ
からの距離
160 km²

アダ
ム・
ヴァ
シレ
フス
キ
よ
り
の
メ
ッ
セ
ー
ジ

ルブリンは、毎年国内外から集まる観光客、多岐に渡る大型イベントの主催者、また投資企業に開かれた友好的な都市です。

ルブリンでは、広範囲なビジネスの発展に最適なコンディションを提供することをモットーとしており、外資系投資企業は安心してその恩恵を受けることが出来ます。

東欧と西欧を結ぶ当市の戦略的ロケーションは、ビジネスを展開する上で最適なコンディションを求める多くの外資系投資企業に支持されています。質の高い労働力、低コスト、市場への抜群のアクセス、輸出に適した環境など、企業の成功の鍵となる場所として最適です。

投資に絶好な環境と既に投資頂いている企業の実績が我々の強みです。

インスピレーションの都市ルブリンへ、どうぞお越しください。

<p>概要：</p>	<p>ルブリンはルベルスキェ県の政治、産業、経済の中心地。ヴィスワ河の東側の都市の中では最も大きな都市である（全国では9番目に大きい）。1569年にこの地で、ポーランド王国とリトアニア大公国が連邦国家となる決定をした（ルブリン合同）。中世のままの佇まいを残す旧市街と巨大なルブリン城が美しい。街の西方の郊外にはナウエンチュフというスパがあり、ここで採取される「ナウエンチョヴァンカ」というブランドのミネラルウォーターは名水として全国的に有名。市内には公園や森林も多く、緑豊かな閑静な街である。街の東方の郊外にはナチス・ドイツによって作られたマイダネク強制収容所跡があり、国立博物館となっている。</p>
	<p>ヨーロッパの都市 ルブリン - 「ヨーロッパ・ディプロマ」受賞 ルブリンは、統一ヨーロッパの理想を体現し、その普及に貢献しているとして欧州評議会の環境・地域計画・地方自治体委員会より「ヨーロッパ・ディプロマ」を受賞しました。この名誉ある評価は、ルブリン市が国際協力および統一ヨーロッパのプロモーション活動を推し進めてきた結果である。</p> <p>「ゴールデンスター・オブ・パートナーシップ」賞受賞 ルブリンは、「ステレオタイプと現実」と題するイベントにおいて「ゴールデンスター・オブ・パートナーシップ」賞を受賞した。この試みは、フランスの姉妹都市ナンシー市とドイツの都市カールスルーヘン市との協力により実現したもので、欧州におけるモデル事業とされている。同賞は、事業の実現を通じ、相互協力の発展に貢献した都市に対し、欧州委員会より贈られる。</p>
<p>教育：</p>	<p>ルブリンは、学術・研究都市としても大きな可能性を秘めている。ヨハネ・パウロ 2 世が教鞭をとったことでも有名なヨハネ・パウロ 2 世カトリック大学、マリア・キュリー・スクウォドフスカ大学、農業大学、ルブリン工業大学、医科大学をはじめとする 14 の高等教育機関があり、10 万人にのぼる学生たちが学んでいる。彼らは知的資本であると同時に、技術移転に関わるセクターに欠かせないばかりか、経済発展の要となる存在である。高い教育を受けた即戦力になる人材は企業の支柱であり、経済セクターの多様化に貢献する。今後も増加が見込まれる学術・研究センターは、新技術産業を担っていくだろう。</p>
<p>経済：</p>	<p>ルブリン経済は、ここ数十年間順調に発展している。この間、ルブリンの経済構造は大きく変化した。セールス・サービス部門を中心に、中小企業が急成長を遂げている。現在、主流となっている産業・サービス部門は、貿易、不動産サービス、建設業、運輸・通信業等である。また、地域特性上、農業と食品加工業はルベルスキェ県の伝統的な基本産業である。主要な農業生産品および加工業は、砂糖、乳製品、食肉、穀類および製粉業、タバコ、蒸留酒製造業、菓子製造業、ハーブ、果物、野菜となっている。</p>
	<p>ルベルスキェ県サイエンス・テクノロジー・パーク</p>
	<p>ルベルスキェ県サイエンス・テクノロジー・パーク（合資会社）の役割は、県内の大学・研究機関と民間企業間の協力を組織的に橋渡しするプラットフォームを提供し、ルベルスキェ県の経済発展を促すことである。とりわけ、研究成果の商業利用および商品化をサポートし、企業の未来に貢献することを目指している。</p>
	<p>ルブリン国際見本市合資会社</p> <p>東ポーランド最大の産業見本市の主催者。近代的設備と広範なネットワークを駆使し、企業、商品のプロモーション、技術紹介に最適な見本市をプロデュースする。</p> <p>ルブリン国際見本市合資会社は、ルブリン情報庁の 9 年に渡る見本市主催事業を引き継ぐ形で、1999 年に設立された。こうした企業は、近年その必要性を増している。見本市が県内の産業を一望できる場として、また新商品のプレゼンテーション、ビジネス・ネットワークを広げる場として注目を集めている。ルブリン国際見本市合資会社のプロデュースによる見本市からは、ルベルスキェ県の持つ可能性、市場動向、マスコミの反応、21 世紀の市場動向に合致したマーケティング・ツールを知ることができます。出展者、来場者の双方にとって、新商品、新サービス、新技術と解決を発見できる情報収集の場である。その重要性は、年々増加する来場者数と見本市数からも裏付けされている。</p>

ルベルスキェ県の観光地:



**ザモシチー
ルネサンスの真珠**

「ルネサンスの真珠」との異名を持つこの可憐な町は、ヤン・ザモイスキという一人の大貴族のアイデアと熱意から生まれた。「ザモシチ」という都市名も、彼の名に由来する。ゼロから造られたこのザモシチは、「理想都市」を具現化したものとして世界的にも他に類を見ない。後期ルネサンス様式の旧市街はユネスコ世界遺産に登録されている。現在のザモシチは、旅行と芸術の町であり、夏季には最も重要な地方文化の中心となる。有名な野外の催しや祭り、とくに、ヘトマンの定期市、ザモイスキ夏の劇場祭、国際民俗芸能祭（ユーロ・フォーク）などがある。



**カジミェシュ・ドルヌイ
- 芸術家の町**

ヴィスワ河畔のルネサンス様式の街。ポーランドで最も美しい町の一つとされる。芸術家や文化人が多く住み、観光客で賑わう。前世紀にワルシャワの画家たちがこの町に見出したのは、ヴィスワ河の流れるマウオポルスカ地方の素晴らしい風景の中に数々の歴史的建築物が調和する様であった。カジミェシュ・ドルヌイは数世代にわたる芸術家を惹きつけている。野外製作のために訪れる者もいるが、ここに定住し画廊を運営する者も多い。数十年前からヴィスワ河畔のこの町では国内最大級の民俗芸能祭が行われ、また十数年前から映画祭も催されている。



**プワヴィ市 -
ポーランドのアテネ**

現在は工業都市であるが、18世紀には大貴族であるチャルトリスキ家によってポーランドの文化芸術の一大中心地となった。チャルトリスキ宮殿、マリンスカ宮殿、シビュラなどがある。ポーランド初の博物館がある町。



ロストチェ国立公園

ロストチェ国立公園は、ポーランド中東部に位置する。自然という点から最も貴重な中央ロストチェ丘陵を含み、その面積の95%は、天然の森林によって占められる。中央ロストチェ丘陵は、非常に変化に富んだ地形をしている。高さが標高350Mにも達する石灰岩層の丘は、耕地が点在する素晴らしい森林に覆われており、氷河期後期の砂が作りだした谷と交互に現れる。公園の植物相は豊かで多様である。樹木の中では、マツ、モミ、ブナが多くみられる。700種以上におよぶ維管束植物では、典型的な低地植物だけでなく、山岳種、北方種、南東種、大西洋種もみられる。また、公園では動物の種類も豊富である。ここには森林に住むすべての典型的な動物が見られる。1979年には、過去の数世紀に絶滅したヨーロッパビーバーがここにふたたび導入され、1982年には、ポーランドの馬で、公園のシンボルもなっているターパンの子孫のレフェュジャが連れてこられた。



コズウフカ宮殿

コズウフカの邸宅は、ポーランドで最も素晴らしい邸宅博物館である。それは、ルバルトフ近郊コズウフスカにあるザモイスキ家の敷地内に位置する。大貴族の邸の内部は第二帝政時代の様式であるが、階段室と礼拝堂はヴェルサイユ宮殿内部の様式を真似ている。宮殿の傍にはポーランドで唯一の社会主義リアリズム芸術ギャラリーがある。

ルベルスキェ県における近頃の国際イベントの報告:

2010年9月10~12日、ルブリン市にて、**第二回ヨーロッパ味の祭典**（クレソヴァ味覚アカデミー協会とプロメディア PR 部主催）が開催される。ルブリンのダウンタウンで行われるこの3日間のフェスティバルは、地方の特産品を広める目的を持ち、Robert Maklowicz氏（下記参照）による芸術的で魅力溢れるプロモーションイベントとなる。出展ブースでは、レシピの秘密公開や試食・販売も実施される。特別な枠として、海外からの展示がある。イベント最終日は、海外グルメに充てられ、ヨーロッパをはじめ世界各国の料理が紹介される。伝統的レシピに基づく料理だけでなく、民族衣装や文化のステージ披露を出展者に薦めている。このイベントのスポンサーはジェチポスポリタ新聞、地域メディアグループ、ルブリンTV、フスホドニ新聞、ル

グリーンラジオ。

今回は約 10 万人が来場し、数千人がテレビ中継等で観覧するという、非常に注目を集めるイベントである。

このフェスティバルに関する問い合わせは、PROMEDIA PR 部 電話 / +48 605-848-848、e-mail /

smaki@biuropromocji.com まで。

Robert Makłowicz(ロベルト マクウォヴィチ): ポーランドの著名なジャーナリスト、作家、評論家、旅行家、そして料理研究家。1998 年から料理番組に出演、高い人気を誇る。2004、05 年に料理オスカー受賞。料理に関する著書多数。